



# 名古屋いのちの電話

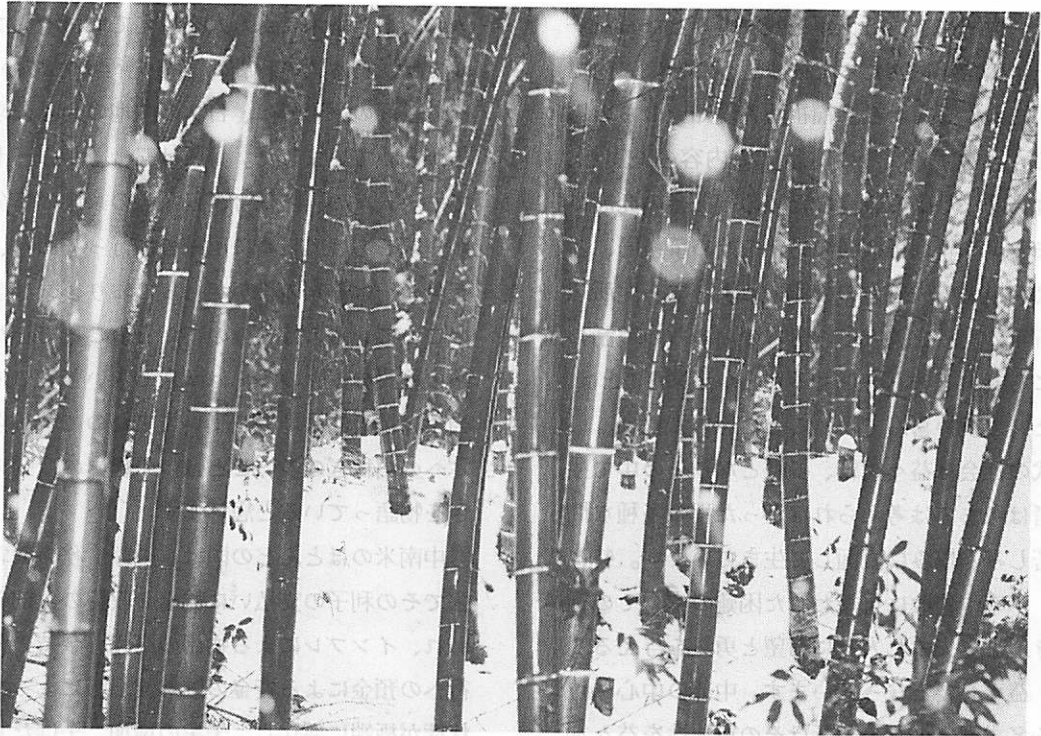


写真 文珠幹夫

竹が割れた

こらえにこらえて倒れた

しかし竹よ その時おまえが

共に苦しむ仲間達の背の雪を

払い落としながら倒れていったのを

私は見ていたよ

ほら倒れているおまえの上に

あんなに沢山の仲間が

起き上がっている

星野富弘

「鈴の鳴る道」より

# 新春を迎えて

社会福祉法人、愛知「いのちの電話」協会

理事長 相馬 信夫

二十一世紀に、あと十年を残すのみとなった一九九一年の新年に当たって先ず思うことは、内では昨年法人格を得た社会福祉法人愛知いのちの電話協会「名古屋いのちの電話」の内容の充実と、その経済的な基礎の確立のための後援会の発展であります。昨年は相談員の方々を始め事務局、各委員会、指導の先生方の御協力によって、開所以来満五年の実績を達成し、日本のいのちの電話の歴史に意義ある一石を加えることが出来たことは、皆様と共に祝い喜んでよいことと思います。

現代の社会は益々複雑、多岐となりその中で生きる者は今までは考えられなかった程の多様な問題や苦しみ、悩みに直面して生きています。特に一度、不幸や失敗に見舞われた困難の中で進むべき道を見失った人々に希望と勇気を与えることは、益々必要となっています。中部の中心に位置する名古屋いのちの電話はその重要性を益々加えて来ております。永年の念願である二十四時間体制への努力と共に、相談の質的向上にも務めたいと思います。

昨年来の東西両陣営の冷戦体制の終決とソ連、東欧における共産党支配の民主化により世界は平和への希望を新たにしましたが、イラクのウエイト進攻により又戦争の危険に見舞われ、発展途上国の貧困に飢え、人権侵害等の危機を思うとき、世界の不安が人々の心の希望の光を蝕んでいることも事実であります。

私は、昨年八月から九月にかけて約一ケ月中南米の七ヶ国をめぐる機会に恵まれました。

日本人の南米移民の歴史は八十年を越え、日系

人の数も全南米で百万人を越えています。ブラジルでは、日本語の新聞が三紙発行されています。その紙面の下半分は、日本の内地の会社の求人広告が占めていました。月収は三十万から三十五万です。人々の話では今、日系人の家族の三分之一が一家をあげて日本に出稼ぎに行っており、次の三分之一は一家の誰かが行っており、家族全部がのこっているのは三分の一だとのことでした。日系の移民の人々の多くは南米で永い苦勞の末、相当良い社会的な地盤を築いて来たのですから、日本への出稼ぎの多いことは今の世界の変動の激しさを物語っていると思います。

中南米のほとんどの国は、国際債務の異常な膨張でその利子の支払いに輸出の収益の大部分が使われ、インフレによる物価の高騰、金持の外国銀行への預金による資金の国外流出等によって経済状態が極端に悪化し、失業の増加、子供たちの飢えが深刻になり、方々の教会の婦人たちが外国からの援助による炊き出しを真剣に始めていました。

この根底には、大地主、企業家、それらと結託している軍人、彼らを利用する外国多国籍企業、が富の大部分を支配し、底辺の大多数の民衆を貧困と飢えに追い込んでいる社会構造があります。これらの実状を見ることを通して、いのちの電話が関わっている個人の不幸、悩み、苦しみの背後に、社会構造による社会悪の存在の大きさを改めて痛感しました。

年の始めに当たって、皆様の上に神の祝福の豊かならんことをお祈りいたします。

## 心の健康—精神科医の立場から—

成田 善弘

ある機会に心の健康についてどう考えているのかと質問された。日ごろ精神科医として心の病に陥った人たちにかかわっているのだが、心の健康についてきちんと考えていなかったことにあらためて気づいた。身体についても健康の定義はなかなかむずかしい。たとえば肝臓という臓器一つとっても、それが健康なときにどれほど複雑な機能を営んでいるのかはなかなかわかりにくい。病気になってある機能が障害され、黄疸や痛みがあらわれて、はじめてそういう機能が営まれていたことがわかる。まして心については、病気と健康の境界が定めがたい場合もあり、そこに価値判断が含まれる場合もあって、健康の定義は身体の場合以上にむずかしい。精神分析の創始者フロイトは、心の健康とはどういうことかときかれて、「愛することと働くこと」と答えたというが、また別のところでは、神経症の治療とは神経症の悲惨を人間一般に共通する不幸にかえることだといっている。つまり心の健康とは人生の不幸を直視し、正当に悩むことができることなのである。

私もこの機会に心の健康とはどういうことかを私なりに考えてみた。

一、心の健康とは不安や悲しみや葛藤のないことではない。それらは人生に不可避のことである。それらを体験することによって心が成熟し、他者への思いやりも生じる。心の健康とは不安や悲しみや葛藤を自分の心の中に体験し、(現実的制約はあるにしても)自分で対処し、克服してゆけることである。心の病に陥るとは、不安や悲しみや葛藤に圧倒されて混乱したり、それらを否認してあたかも悩みのないように振る舞ったり、ほかのことに置きかえたり、(たとえば性衝動への恐れを不潔恐怖に置きかえる)不安を心の中に保持できずに異常な行動に発散したり、すべてを外界のせいにしたたり、あるいは感情を自覚せずに身体の

症状として訴えたりすることである。

二、心の健康とは自分の本当の気持ちや考えをきちんと見つめられることである。家族や会社や世間の感じ方や考え方をそのまま取り入れて、あたかも自分自信の気持ちのように思っている人たちがいる。会社や世間の価値判断から自分を責めてゆううつになる人たちがいる。親の気持ちと自分の気持ちの正別のつかない子どもたちがいる。彼らはやがて「本当の自分のなさ」に直面しなければならなくなる。

三、心の健康とは身体の出すメッセージに耳を傾けることができることである。身体は実は心と密接につながっている。しかも人が意識している心の表層よりも、十分には意識されていない心の深みとつながっている。だから身体のこりや緊張や痛みや胃腸障害を、心の深みが何らかの信号を発しているのだと受け取ってみる。意識的には気づいていなかった心の危機に気づかされることもある。身体を支配しコントロールするのではなく、身体が告げてくれることに耳をすませて聴き入れることが大切である。たとえば拒食症や過食症の患者たちは、身体がいのちの危機を告げているのにそれに耳をかすことができない。食事をコントロールし身体を支配しようとして、結果的に自己とその身体を虐待してしまうのである。

いまの私には、以上の三つが心の健康の大事な指標に思える。これはつまり自分自信(の深み)とのよいコミュニケーションを保つということであろう。それができてはじめて他者とのよいコミュニケーションが可能になるのだと思う。

こんな風に考えてみたが、これだけでは心の健康という複雑で精妙な事態を十分とらえているとはとてもいえないだろう。病気というマイナスの事態をできるだけ少なくするよう努めるのが医者の仕事であって、心の健康というプラスの事態を実現するのは各人ひとりひとりに委ねられる仕事であるらしい。

(中京病院神経精神科部長・訓練スタッフ)

## 親睦会

楽しく学びました



90年もおしつまった12月8日、センター三階ホールに於いて、柳城女子短期大学教授森省二先生をお招きして講演会と会員相互の親睦会が開かれました。親睦会は恒例となっていますが、今年は、唯たのしく語り、遊ぶだけでなく、私達が日頃電話相談を受けていて疑問に感じていること、不安に思っていることなど、特に性の問題について勉強出来るような集まりであってほしいとの会員の方々からの要望が多くあって、精神科医で「正常と異常のはざま」「逸脱するエロス」などその他沢山の著書をお出しになっていらっしゃる森先生にお願いすることになりました。

幸い、先生と御深交のある塚田先生からお願いして戴いたところ、心よくお引き受け下さって開講の運びとなりました。

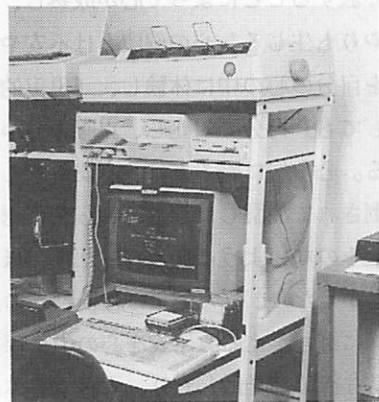
例年なら、今一つ人数的に小ぢんまりとした親睦会だったのですが、当日は70名に近い会員が集り、会員諸姉姉のより一層の電話相談への熱意が

会場一ぱいにみなぎっておりました。

学者であり、お医者様でもあり、又児童相談の電話相談にも自ら当たっていらっしゃるという先生のお話は「生命とエロスと電話相談」と題して先生が実際に当られたケースから又先生の豊かな御経験から、時には有名な小説の主人公を引用したりなどして、ユーモアも交えながら「人間が何故エロスになやむのか」「エロスへの個人性と対人性」などお話下さり、性の問題も時代と共にだんだん価値判断が変わって来る中で、エロス逸脱問題に対する応答の原則として ①非を咎めない ②葛藤や悩み不安の明確化 ③問題を人生及び人間の全体性として捉える ④常識の安全性、とまとめて下さったのはとても解りやすく心に残るお話で今後、性に関する電話相談があった時にはこの教えを生かして応答に当たってみたいという意欲と勇気が湧いて来るのを覚えました。

その後、森先生も交えてそれぞれが6つのグルー

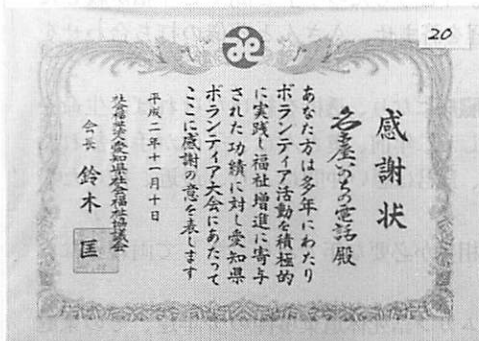
平成2年度年末助け合い義援物品として、愛知県共同募金会を通し、東海テレビ福祉文化事業団より、新しいコンピューター一式の寄贈を受ました。



楽しく遊びました

プに別れ、差し入れのワインで相互の健康と名古屋いのちの電話の益々の発展を願って乾杯して親睦会がはじまりました。テーブルに山とつまれたオードブル、ケーキに果物、いろいろな飲み物など忙がしく口に運びながらも久々に逢えた同期の人、過去に同じグループで一年間一緒だった人たちを見つけては話に花が咲き、時間の過ぎるのも忘れてしまう程たのしい集まりでした。又、今年初めて相談員になって下さった五期の方々も沢山出席して下さい、和気あいあいとけこんで下さったのも本当にうれしくて事でした。会場の都合で少々早く切り上げねばならなかったのは残念でしたが、みんなで又、明日からの電話相談にがんばりましょう、と心を燃やして惜しい別れを告げました。最後に、私達相談員の為に貴重な時間をさいて、有意義なお話をして下さった森先生に熱く御礼申し上げます。

M. D



## 教育の昏迷の中で

暖冬だったと思っていたのに、新しい年に入って、急に冷え込む毎日になりました。一年で一番寒いこの時期は、若い人にとって、また一番厳しい受験のシーズンでもあるのです。私の息子にもそのような時期がありました。それに重ねて、老いた叔母の引き取り、主人の病気、叔母の死、と、精神的な重さも加えて家庭の状況も変わってゆきました。そんな中でもいつでも私の心から離れなかったのは、一人の子を通して教育とはなにか…を索め続けている思いでした。それも楽しかった幼児の子育て期に比して思ってもみないような、ゆがんだ教育状況の渦の中へ親子で突入しなければならなくなり、理想の子育てはいつのまにか姿を消して、きびしい現実だけが生々しく私達の前に立ちはだかつておりました。

大切な子どものことをこんなふうに公開して問いかけることになったのは、小さな私でも黙っていられなくなったからでありましょ

う。

「一人の人間とは今や歴史なのです。しかも一つの個人的な歴史なのです」このポール・トルニエの言葉が私の筆をとらせる踏出しになりました。「教育とは主人公を作ることではなく、一人一人を明確にしてゆくことです。」と、私はなんだか自信たっぷりに書きましたけれど、一人の子どもを育ててきたプロセスの中での喜び、驚き、苦難が、私達母子を形成してきてくれたように思うからです。それを協ける学校教育であってほしいのが切実な願いです。

最近、気にかかるのは、若いお母さんの子育てへの自信喪失、また、心病んだ人の「小さい時かわいがられたことがない…感動がない…」という声をきくとやりきれなくなります。そこには戻ることのできない人生の旅路を見るように思うからです。「母と子の旅立ち—教育を求めて—」(柳沢幸子 頒価1300円)をこのような願いをこめて書いてみました。

### 点滴

子供が学校へ出かける為、それぞれが身仕度にドタバタしている時、電話のベルに受話器を取った。「名古屋のAです。枕経をお願いします。」一瞬老母の顔が浮かぶ。「お婆ちゃんかい?」「違うんです。息子が自殺したんです。」「えっ。はい、出来るだけ早くお伺いします。」突然のことに言葉を失い受話器を置いた。車中では様々な思いがよぎる。一体、何があったのだろう。Aさんの亡父の葬儀以来会った記憶のない、五・六才であった、あどけないB君の顔を思いだす。

B君の遺体の前に進む。母親が遺体にすがって泣きさげている。「どうしたの!」と聞くと「私が殺したようなものです。」と、唯、涙ばかりである。気を取り直し、枕経を済ませ、Aさんと葬儀の打ち合わせをする内、大体の話が分かった。

Aさんは、若い頃徹マンなどの無理な体使いが要因と思われる腎臓病になり、透析を続けなければ、生命を維持できなくなって二十年位になる。B君が中学を終え、就職をした二年前、奥さんは、子供が手を放れたから、私も自由になりたいと離婚していたのである。丁度その頃、B君は悪い仲間に入り、最近、抜きたいと悩んでいた様子だ。

十六才と言えば、決して手の放れる年では無いし十八才でも相談相手が必要な年であり、まして両親となれば尚更である。

世間をドキッとさせた、青少年による女子校生リンチ殺人・ドラムカン詰死体遺棄事件の少年達、その家庭も崩壊状態であったと聞く。

親が子育てを放棄し、その陰で青少年が命を粗末に扱っている。そんな図式が浮かんでくる。 T. K



## 名古屋いのちの電話日誌

- 10月12日 日本連盟ディレクター会議 於名古屋  
 13日 第15回自殺予防シンポジウム  
 15日 運営委員会、訓練委員会  
 18日 相談員認定委員会  
 19日 宗教者による街頭キャンペーン財務委員会  
 22日 理事会  
 30日 相談員認定式
- 11月19日 運営委員会、訓練委員会  
 22日 財務委員会  
 27日 東海近畿ブロック事務局会議
- 12月5日 愛知県ボランティア大会にて表彰される  
 8日 相談員懇親会、森省二先生講演会  
 10日 訓練委員会  
 17日 平成2年、年末助け合い義援物品(コンピューター一式)東海テレビより授与される。  
 運営委員会  
 29日 年末助け合い義援金30万円を中日新聞社会事業団より授与される。
- 1月14日 運営委員会

## ご寄付下さる皆様へ

当協会への寄付金については所得税や法人税の優遇措置が受けられます。

### ★ 個人の場合

確定申告によって、所得税法、(第78条1項・2項3号)の規定により寄付金控除が受けられます。

・寄付金額又は  
 ・所得額×0.25

のいずれか低い金額  
 - (1万円) = 寄付金控除額

### ★ 法人の場合

確定申告によって寄付された金額を法人税法(第37条3項3号)の規定により、一般損金算入の枠の他にこれと同額枠の損金算入枠が認められます。

### ★ 本協会の発行する領収書は大切に保管して下さい。

お問い合わせは…

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
 事務局 ☎ 971-5181

## 賛助会員を募集しています

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。  
 年間1,500万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立ての課題を与えられています。

会員の皆様の旧倍のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。

法人となりましたので寄付金の税法上優遇措置が受けられるようになりました。

## ご協力をお願いします

- (1) 法人会費年間5万円以上・10万円
- (2) 賛助会費(年間1口)  
 A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付
- (4) 夏期・年末寄付ご自由な金額で結構です

口座名 社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
 理事長 相馬 信夫  
 口座番号 東海銀行大津町支店(普)477029  
 郵便振替口座 名古屋1-53758

### 【MEMO】

年の始めの本号は、堅い挨拶等は極力控え、出来るだけソフトなものに仕上げる様、努めました。

2月は最も寒い月です。お届けしましたこの19号が皆様の心の暖房の一助になれば幸いです。

ご意見、ご感想、お寄せ下さい。又投稿もお待ちしております。

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会  
 名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱 第257号  
 事務局 ☎ 052-971-5181  
 相談電話 ☎ 052-971-4343

1991. 早春

1991年2月1日発行  
 発行人 相馬 信夫  
 編集人 広報委員会  
 郵便振替口座 名古屋 1-53758  
 東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029